はやしだより

2022年秋号発行　広報誌　第39号

公益財団法人 林精神医学研究所
附属林道倫精神科神経科病院
〒703-8520
岡山市中区浜472番地
TEL. 086-272-8811
FAX. 086-273-9944
ホームページ
http://www.hayashi-dorin.or.jp/
E-mail:hamawww@po.harenet.ne.jp

♥病院理念
その人らしく生きられるように
共に支えあいます

♥基本方針
1、「心の病」の予防、治療、リハビリに取り組みます。
2、人権を尊重し、安全・安楽・信頼の医療に努めます。
3、地域と連携し、誰でも安心して暮らせる地域づくりに努めます。

当法人は創立70周年を迎えました

日頃からお世話になっております。

当法人はおかげさまで本年8月1日に創立70周年を迎えました。

創始者である林道倫が「理想的治療精神病院の範を示していきたい」との理想の元、岡山市北区番町に林道倫精神科神経科病院を開院しました。

以来、岡山ひだまりの里病院、みさお山訪問看護ステーション、岡山EAPカウンセリングルーム、相談支援事業所かなでなどの新たな事業所なども開設してまいりました。

そして、現在は「その人らしく生きられるよう共に支えあいます」の理念を掲げて、患者さまの立場に立った医療に努めております。

この間には幾多の困難がありましたが、何とか医療活動を続けてこられたのはひとえに関係諸機関の皆様のご協力があったからです。

これからも、精神医療の発展のため、引き続き努力してゆく所存でございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

林道倫精神科神経科病院
院長　林　英樹

当院はお金のあるなしにかかわらず安心して受診していただける病院です。

●無料・低額診療事業を実施しています　●差額ベッド代は頂いておりません

林病院は、患者さんの受療権を守る取り組みとして、無料・低額診療事業（無低診）を実施しています。無低診を適用されますと、当院の医療費が無料または低額になります。経済的な理由で医療費の支払いが難しい方、お気軽に相談室または受付まで、ご相談ください。適用にならない場合でも、解決策を一緒に考えていきます。

また、「命は平等である」との考え方から、差額ベッド代も頂いておりません。

精神疾患の親をもつ子どもたち

～今がんばっている、がんばってきたあなたへ～

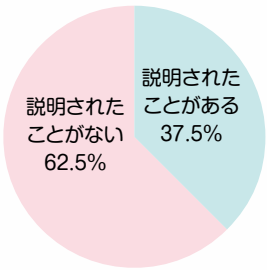
「ヤングケアラー」という言葉を、最近多く耳にされると思います。

ヤングケアラーとは、家族のケア（家事、介護、年下のきょうだいの世話、感情的サポートなど）を担う子ども・若者たちを呼びます。厚生労働省が2021年4月に文部科学省と連携のもとにおこなった全国調査によると、中学生で5.7%、全日制高校生で4.1%、通信制高校で11.0%がヤングケアラーにあたると結果が出ています。ヤングケアラーは、「子ども」という「ケアされる存在」でありながらも、「ケアラー」という「ケアする存在」でもあるという二面性を持っているとされています。（※1）

岡山県では、総社市が全国2番目にヤングケアラー条例を可決、ここ岡山市でも地域で生活をサポートする相談支援事業所（当院では「かなで」）の担当者へアンケート調査が昨年行われました。

子どもたちの生活の実態や、苦悩に光が強くあたる前から、多くの支援者が子どもたちを守らなければと奔走してきたことはいうまでもありません。ですが、支援を普遍的に必要な子どもたちに届けられていないのが現状です。子どもたちの苦悩、生きづらさはどのようなものでしょうか？

図1：病気の説明の有無



調査（※2）によると多くの子どもたちは、親の病気（調査では精神障害）について説明を受けていませんでした。（図1）周囲の大人は子どもを傷つけまいと伝えていなかったり、どう伝えていいかわからなかったりした場合がありました。子どもたちは些細な変化に敏感です。「説明を受けていない→異変を感じる→言ってはいけないことなんだ」このように感じたと成人した子どもたちが語ることは多いです。

ヤングケアラーの話をしていると、「病気の影響で子どもが苦労している」と感じたと感想を伺うことがあります。そうではありません。「親もまた苦労しており、支えられるべき存在であり、子どもも同じであること」この視点はとても大切です。

図2：子どものサポートになること（※3）

親の病気の症状や生活への影響を知る	病気との付き合い方を知る	相談できる大人とつながる	安心して生活できる	子どもらしくすごせる時間をもてる

※子どもと家族の状況に応じたサポートが必要です

そのなかで、成人した子どもの立場の人たちがピアサポートグループ（※4）を全国で作り、活動しています。「こどもぴあ」や「親&子どものサポートを考える会」などです。自分だけだと思っていた…孤独の中にいた仲間たちが、自分の体験を語り、仲間の体験に共感しながら「一人じゃない実感」を得ながら、子どもたちも「回復」の道を歩んでいます。子どもの困難に気づける確率が高い機関が2つあると言われています。学校、そして病院です。私たち精神科医療機関も、子どもたちへ支援ができないか、また、子どもたちを支援する制度やサービスが充実するよう、社会へ働きかけていく必要があると考えます。

（2022年5月31日院内活動交流集会の発表を加筆修正）

精神保健福祉士　金関　秋音

※1精神障害の親をもつ「ヤングケアラー」の語りに見る社会的排除(2020),河西　優
※2精神障害をもつ親の子ども支援について(2013),土田　幸子
※3「親が精神障害　子どもはどうしてんの？」解説・子どもの経験とサポート―海外、日本の調査から。（ぷるすあるはHPより）
※4「ピアサポートグループ」：同じような立場に直面する人がお互いに支え合うグループ活動、仲間同士の支え合いのこと（COMHBOホームページより）

林病院“リカバリー”の今

―第4回　作業療法のリカバリーについて―

今回で最終回となる連載「リカバリー」、最後は作業療法科の取り組みについてご紹介します。

当院では入院・外来患者様へ作業療法（以下OT）を実施しています。OTでは作業を通して自分で考え、取り組みながら様々な経験を共に行い、本人にとって価値のある人生、充実した生活ができるように共に考えながら、日々リハビリテーションに取り組んでいます。

入院にいたる経緯は人それぞれであると同時に、人生史、個性、価値観なども異なるため、リハビリ内容も様々で、同じプログラム内容であっても目的や用途は異なります。それに加え、本人の望む目標も多様であるため、支援方法も柔軟性を求められます。そのためOTは集団や個別の関わりのなかで、本人がOTプログラムをどのように活用し、どうしたら目標を達成できるかを共に悩み考えながら、プログラムを通し本人の強みや特性を把握しながら支援しています。

入院当初から集団・個別・パラレルな場の3つをリハビリに活用しています。集団療法では、「こんな病気になったのは自分だけじゃない」「私も意外と出来る。誰かの役に立った」など集団の中で他者と交流し共有体験を繰り返しながら、自信の回復、役割の取得、生活技能の改善・習得、趣味の拡大など、生活の質の向上や回復の基盤へ繋がることを意識し実施しています。それに加えてふたばの会、めばえの会、でんでん虫の会といった疾患教育プログラムを取り入れながら、疾患の特徴や自身の特徴、不調のサインを知り、病気と折り合いをつけながら生活できることを目的に実施しています。個別の関わりでは、より主体的に本人の望む生活へ支援出来るように、既存のプログラムに加え、個人のニーズに沿ったプログラムを意識し実施しています。また、集団や個別に加え、病棟外で実施しているパラレルな場を活用した森の広場があります。パラレルな場とは、場を共有しながらも人と同じことをしなくてもいい場、あるがままの自分を受け入れてくれる場として活用しながら、スタッフや他者同士のかかわり方、距離の取り方を見て学び自然に模倣するなど、模擬社会としての要素を含んだ森の広場で活動し、より現実的な生活に向けた歩みに繋がればと考えながら実施しています。

今後もOTでは、どんなことができるようになりたいか、できる必要があるのか、本人にとって価値のある人生、充実した生活ができるように共に考えながら、その人が、その人らしく、健康や幸福を感じられることを目指して、一人ひとりに寄り添ったリハビリを実施していきたいと思います。

作業療法士：内田　卓也

認知症専門デイケア「わたぼうし」

※感染対策の上、マスクを外して撮影しています

わたぼうしは日中に通っていただき、治療的かかわりを主とする認知症専門デイケアです。『その人らしく生きる』を基本に個性を尊重し、ゆったりとした時間の中で過ごしていただいています。認知症状の改善と進行を緩やかにするため、回想法、体操やゲームを楽しみながらの身体リハビリ、個々に合わせた頭の体操、季節を感じるレクリエーション・園芸、絵画、工作、書道、編み物など様々な治療的取り組みを日々の活動の中で行っています。

わたぼうしでは楽しい活動のなかから、専門的、治療的な視点でそれぞれの職員が関わり、支援を行なっています。大きな特徴としては、医療行為ができるため、内科的疾病についての処置が実施できます。そして【認知症の症状があれば年齢に関係なく利用できること】、また【介護保険ではなく医療保険で利用いただける施設で、介護保険との併用も可能なこと】や【自立支援医療制度を使えること】などの特徴もあります。

また、介護における悩みの共有や介護者同士のつながりができる場として、コロナ流行前には、家族会や家族介護教室での交流会などを行っていました。認知症の方やそのご家族、介護者の方と、地域の中で共に活動していきたいと思っておりますので、認知症のことでお困りのことがあれば、なんでもご相談ください。

そのひとらしく、住み慣れた地域で生活できるよう共に歩み支援するデイケアとして、『認知症のことで困ったことがあればわたぼうし』と思ってもらえるような地域の拠点になりたいと思います。

診察のご案内

入院対応
入院のご相談は、地域連携室へご連絡ください。
夜間・休日も対応しています。
TEL:086-272-8811

外来通院
外来通院の相談は「林病院けやき外来」へご連絡ください。
9:00～17:00　月曜日～金曜日
9:00～12:30　土曜日
TEL:086-272-8570

デイケア・ナイトケア
9:00～20:00　月曜日～土曜日

重度認知症患者デイケア(わたぼうし)
9:30～15:30　月曜日～土曜日

林病院へのご案内

林病院へは…

- 岡山駅よりタクシー約10分
- 山陽本線(赤穂線)西川原駅より南へ徒歩13分
- 岡山駅東口バスターミナルより岡電バス「藤原団地行」、宇野団地入口で下車。西へ徒歩約2分
- 岡山駅東口バスターミナルより宇野バス「東岡山線」、林病院入口で下車。西へ徒歩約2分